

ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

平成30(2018)年2月7日 報道発表資料

報道関係者各位

【取材案内】2月20日開催 シリーズ 舞台芸術としての伝統芸能 vol.1 「一居一道(いっきょいちどう)」のご案内

平素よりお世話になっております。このたびロームシアター京都では、2月20日(火)に、シリーズ 舞台芸術としての伝統芸能 vol.1「一居一道(いっきょいちどう)」を開催いたします。報道機関の皆さまには、この機会に是非ご取材いただき、貴媒体にてご紹介いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

<開催概要>

シリーズ 舞台芸術としての伝統芸能 vol.1「一居一道(いっきょいちどう)」



ロームシアター京都では、伝統芸術の継承と創造を目的とした「舞台芸術としての伝統芸能」シリーズを今年度より実施します。記念すべき初年度は、尾上流四代家元の尾上菊之丞氏をスーパーバイザーに迎え、「舞踊」を取り上げます。能・上方舞・歌舞伎舞踊の連続上演と、出演者らによるディスカッションを実施し、永年受け継がれてきた日本の伝統芸能の様式とその背景にある思想から、現代に通じる伝統芸能の“普遍性”に迫ります。

<出演者>

金剛龍謹(こんごうたつのり)／金剛流若宗家

井上安寿子(いのうえやすこ)／京舞井上流

吾妻徳陽(あづまとくよう)／中村巷太郎(なかむらからずたろう)、吾妻流七代目家元

<スーパーバイザー>

尾上菊之丞(おのえきくのじょう)／尾上流四代家元

日時:2018年2月20日(火)19:00 開演 会場:ロームシアター京都 サウスホール

演目:

【第一部】

「内外詣(うちともうで)」金剛龍謹(金剛流二十七世若宗家)

「珠取海女(たまとりあま)」井上安寿子(京舞井上流)

「娘道成寺(むすめどうじょうじ)」吾妻徳陽(吾妻流七代目家元)

【第二部】

出演者・スーパーバイザーによるディスカッション

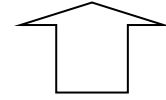
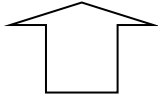
主催:京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

助成:平成29年度 文化庁 文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業

出演者プロフィール、演目紹介、フォトレポートほか詳細は3ページ以降を参照ください。

<取材案内>

上記について、是非とも取材いただきますようご案内申し上げます。ご取材いただける場合は、別紙の出席確認票をご記入のうえ、FAXにてロームシアター京都に **2月16日(金)まで**にご連絡をお願いいたします。



ロームシアター京都 宛
FAX:075-746-3366

**シリーズ 舞台芸術としての伝統芸能 vol.1
「一居一道（いっきょいちどう）」出席確認票**

御芳名	
媒体名 貴社名	
TEL	() - ※当日連絡可能な連絡先 () -
FAX	() -
メール	
備考	

- ◆平成30年2月16日（金）までに 本票をFAXにて（075-746-3366）送付願います。
- ◆当日は、本票をサウスホール入口の「プレス受付」に御提示ください。
- ◆上演中のスチール、ビデオ撮影はご遠慮ください。公式の舞台写真をお渡しできますので、ご希望の際はお問い合わせください。
- ◆駐車場はございません。公共交通機関を御利用いただくか、お車でお越しの際は近隣の駐車場を御利用ください。

[本リリース発信元]ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)
TEL:075-771-6051(9:00~17:00) FAX:075-746-3366
ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) 広報担当:松本、長野

ロームシアター京都 シリーズ

舞台芸術としての伝統芸能 vol.1

「一居一道 (いっきょいちどう)」

2018年2月20日(火) 19:00 開演

ロームシアター京都 サウスホール



伝統芸術の継承と創造を目指す新シリーズが始動！

次世代の担い手たちによる“舞踊”の連続上演から読み解く

現代に受け継がれる伝統芸能の“普遍性”とは

ロームシアター京都では、伝統芸術の継承と創造を目的とした「舞台芸術としての伝統芸能」シリーズを今年度より実施します。記念すべき初年度は、尾上流四代家元の尾上菊之丞氏をスーパーバイザーに迎え、「舞踊」を取り上げます。能・上方舞・歌舞伎舞踊の連続上演と、出演者らによるディスカッションを実施し、永年受け継がれてきた日本の伝統芸能の様式とその背景にある思想から、現代に通じる伝統芸能の“普遍性”に迫ります。

■ シリーズ「舞台芸術としての伝統芸能」について

能楽（能・狂言）、日本舞踊、人形浄瑠璃文楽、歌舞伎を始め、世界レベルで見ても、高度で独自性の強い芸能が、数多く、しかも日本の全国各地に存在します。それらを、同時代の舞台芸術として、伝統芸能の持つ普遍的なエッセンスがより鮮やかに浮かび上がるような仕掛けで上演する企画として、今年度から始動いたします。

■ 次世代の伝統芸能を担う 20 代の若手出演者が魅せる、芸の神髄

ロームシアター京都の新しい取り組みにふさわしい、次世代の伝統芸能界を背負う 3 人の出演者が出揃いました。トップバッターを飾るのは、金剛流若宗家・金剛龍謹。能楽シテ方五流派の中で唯一関西に宗家が在住する金剛流は、豪快でめざましい動きの中に優美さを持ち合わせた「舞金剛（まいこんごう）」と称される表現を追求してきました。その真髄を体現する、若宗家の華麗な舞から舞台が始まります。

続いて登場するのは、京舞井上流・井上安寿子。人間国宝・五世井上八千代を母に持ち、幼少期から井上流の未来を託された彼女は、近年では京都市芸術新人賞、伝統文化ポーラ賞奨励賞を受賞するなど、着実に実績を重ねています。京都の地で、能と文楽の影響を強く受けながら発展してきた、京舞井上流の大曲をお楽しみください。

ラストを飾るのは、吾妻流七代目家元の吾妻徳陽。昨年 12 月にロームシアター京都で行われた顔見世興行にも出演し、日本舞踊家としての活動のみならず、歌舞伎界でも若手実力派の女方役者として多くの注目を集めています。女性舞踊家としての踊りを追求してきた吾妻流の七代目家元が魅せる歌舞伎舞踊に、是非ご期待ください。

<出演者プロフィール>

金剛龍謹（こんごうたつのり）／金剛流若宗家

能楽金剛流若宗家。昭和 63 年、二十六世宗家金剛永謹の長男として京都に生まれる。幼少より父・金剛永謹、祖父・金剛巖に師事。5 歳で仕舞「猩々」にて初舞台、10 歳で能「岩船」初シテを勤める。スペイン・ポルトガルやロシア公演に参加、演能会「龍門之会」を主宰するなど、活躍の場を広げている。



井上安寿子（いのうえやすこ）／京舞井上流

昭和 63 年、九世観世鍊之丞と京舞井上流五世家元井上八千代の長女として京都に生まれる。平成 3 年、四世及び五世井上八千代に師事。平成 4 年「四世井上八千代米寿の会」にて初舞台を踏み、平成 18 年井上流名取となる。平成 25 年第 50 回なにわ芸術祭新進舞踊家競演会において新人賞受賞、平成 27 年度京都市芸術新人賞受賞。平成 28 年には伝統文化ポौर賞奨励賞を受賞。



吾妻徳陽（あづまとくよう）／

吾妻流七代目家元、歌舞伎俳優 中村竜太郎

吾妻流七代目家元。三世宗家二代目吾妻徳穂の長男。歌舞伎俳優。平成 19 年に歌舞伎俳優として最年少の 16 歳で「鏡獅子」を踊り、平成 22 年には「曽根崎心中」のお初を役の年齢と同様の 19 歳の時に演じた。国立劇場奨励賞を受賞するなど若手花形歌舞伎俳優として活躍。平成 24 年には「連獅子」で芸術祭新人賞を受賞。



<スーパーバイザー>

尾上菊之丞（おのえきくのじょう）／尾上流四代家元

1976 年東京生まれ。初舞台は 1981 年。1990 年に尾上青楓の名を許される。2011 年父・二代尾上菊之丞（現墨雪）より尾上流四代家元を継承し、三代目尾上菊之丞を襲名。自身主宰のリサイタルをはじめ、舞踊会や他分野のアーティストとのコラボレーションなどにも積極的に挑戦している。新橋・先斗町の花街舞踊、新作歌舞伎の振付師として活動している。



■ 現代映像美術家×出演者のコラボレーションによる映像に注目！

第一部で行われる、能・上方舞・歌舞伎舞踊の連続上演。各演目の幕間に、現代映像美術家・宮永 亮（みやながあきら）の撮影・監修による出演者のコメント映像を上映します。カメラで撮影された動画を何重にも重ね合わせる手法を用いて新たなイメージやモチーフを生み出し、現代美術のフィールドで様々な試みを行ってきた宮永が、“伝統芸能”という新たな地平での映像制作に挑戦します。各出演者による作品の解説に加え、出演者自身が背負う芸道への熱い想いを語った映像が、宮永の手によってどのような形で表現され、わたしたちに新たな着眼点を与えてくれるのでしょうか。

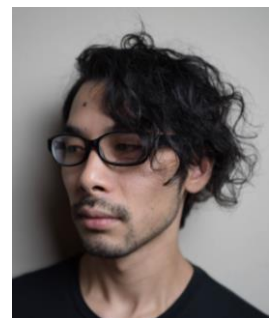
※5-6 ページでは、12月14日にロームシアター京都で行われたコメント撮影会のフォトレポートを紹介しております。

<作家プロフィール>

宮永 亮（みやながあきら） / 現代映像美術家、ビデオグラファー、VJ、MVディレクター
1985年北海道生まれ、京都市在住。京都市立芸術大学大学院修了。平成23年京都市芸術文化特別奨励者。ビデオカメラでとらえられた実写映像素材のレイヤーを、幾重にも渉りスーパーインポーズする手法を用いて作品制作を行う。主に現代美術の領域でビデオ作品、ビデオ・インスタレーション作品等の発表のほか、VJ活動やMV・PV制作、舞台映像制作も行う。主な参加展覧会に「REALTIME」(ビクトリア国立美術館、2016)、「MOT アニュアル 2014 フラグメントー未完のはじまり」(東京都現代美術館、2014)、「なつやすみの美術館 3「美術の時間」」(和歌山県立近代美術館、2013)、「第5回恵比寿映像祭 パブリック・ダイアリー」(東京都写真美術館、2013)等。

<作家コメント>

伝統芸能の公演でありながらも、それらを通常とは異なる場所、文脈に読み込み直してみる、という野心的な試みにとても魅かれます。今回幕間の映像を制作させていただくことは、普段は現代美術の領域にて、自身の手法にて映像作品を行なっている私にとっても、異文脈に身をさらす事になるわけです。そのことも同時に楽しみながら制作を進めて行きたいと考えています。



【コメント映像撮影会 フォトレポート】

2017年12月14日、本公演の会場となるロームシアター京都サウスホールにて、映像作家・宮永亮と出演者等によるコメント映像撮影会が、スーパーバイザー・尾上菊之丞の立会のもとで行われました。

一切の装飾を施していないホールの舞台上で行われた撮影会。スーパーバイザーとして本公演の演出を務める尾上菊之丞さんが事前に用意してきた質問に答える形で、撮影会は進行していきました。

まず最初に登場したのは、京舞井上流の井上安寿子さん。淡い色の上品なお着物を身にまとい、程よい緊張感のなかで撮影が始まりました。



写真：時折笑顔を見せながら、作品への想いを語る井上安寿子

母であり人間国宝でもある五世・井上八千代も「うちの舞の中で一番しんどい曲（注1）」と言っている『珠取海女』。体力・気力ともに実力が試される一曲への想いを、大いに語っていただきました。舞台上では見ることのできない、澀刺とした笑顔が大変印象的でした。

続いて現れたのは、金剛流若宗家・金剛龍謹さん。能楽では珍しい、色紋付での登場となりました。菊之丞さんの問いかけに対して、先ほどの安寿子さんとは対照的に、終始真剣な面持ちで語ってくださった龍謹さん。今回演じる「内外詣」は、金剛流のみで演じられてきた演目という事で、思い入れもひとしおのようです。撮影中には、「内外詣」の一節である謡を披露。会場内に響き渡る威厳のある謡に、一瞬にして作品の世界に引き込まれるようでした。



写真：(左から順に) 尾上菊之丞、宮永亮、金剛龍謹

最後に登場したのは、吾妻流七代目家元・吾妻徳陽さん。実はこの日、別会場のメインホールでは顔見世興行の真っ最中。夜の部の出演を終えた徳陽さんは、そのまま休むことなくサウスホールへ移動し、撮影会に参加。お忙しい様子を一切感じさせず、さわやかな表情で登場してくださいました。



写真:疲れた様子を一切見せず、笑顔で撮影に臨む吾妻徳陽

歌舞伎俳優・中村吉太郎としても活躍中の徳陽さん。歌舞伎俳優／日本舞踊家の両翼で活動する徳陽さんからは、それぞれの演じ分けや、気持ちの切り替えについての話題を中心にコメントをいただきました。

終始和やかに進んだ撮影会。ここで撮影した素材を元に、どのようなコメント映像が出来上がるのでしょうか？是非会場にて、実演と合わせてお楽しみください。

注 1) 産経 WEST【亀岡典子の恋する伝芸】より抜粋 <http://www.sankei.com/west/news/150611/wst1506110014-n2.html>

<開催概要>

ロームシアター京都 シリーズ

舞台芸術としての伝統芸能 vol.1「一居一道（いっきょいちどう）」

日時：2018年2月20日（火）19:00 開演

会場：ロームシアター京都 サウスホール

第一部

「内外詣（うちともうで）」金剛龍謹（金剛流若宗家）

「珠取海女（たまとりあま）」井上安寿子（京舞井上流）

「娘道成寺（むすめどうじょうじ）」

吾妻徳陽（吾妻流七代目家元、歌舞伎俳優 中村壱太郎）

第二部

出演者・スーパーバイザーによるディスカッション

<演目紹介>

■内外詣

伊勢神宮の神主と巫女が、京都から参詣してきた勅使のために祝詞・神楽・獅子舞を舞い、神徳をたたえ、この世の太平を寿ぐ、芸づくしの曲です。華麗な身のこなしを得意とする、金剛流のみで演じられる一曲をお楽しみください。

■珠取海女

香川県志度寺に伝わる物語を基に作られた能「海土」に取材した曲です。我が子の出世の為、竜神に奪われた宝珠を取り戻しに海中深く潜り、自分の命と引き換えに珠を取り戻す一人の海女の物語。子を思う母の強さ、愛情深さが溢れる作品です。

■娘道成寺

能「道成寺」を起源に作られた、女方舞踊の最高峰ともいえる代表的な歌舞伎舞踊です。恋にまつわるさまざまな女性の姿を、色とりどりの衣裳や小道具で華やかに綴ります。

<チケット情報>

発売中

料金：全席指定 一般 5,000 円 / ユース（25 歳以下） 4,000 円（限定枚数 / 要証明書）

※未就学児童入場不可 ※ユースチケットはロームシアター京都オンラインおよびチケットカウンター、京都コンサートホールチケットカウンターで取扱。公演当日に受付にて年齢が確認できる証明書（学生証、免許証等）をご提示いただき、指定席券とお引換えいたします。

チケット取扱：

ロームシアター京都オンラインチケット <https://www.e-get.jp/kyoto/pt/>

ロームシアター京都チケットカウンター（窓口・電話）TEL.075-746-3201（10:00～19:00、年中無休）

京都コンサートホールチケットカウンター（窓口・電話）TEL.075-711-3231

（10:00～17:00、第1・3月曜休※祝日の場合は翌日）

チケットぴあ <http://t.pia.jp/> 0570-02-9999（Pコード：102-488）

【主催】京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

【助成】平成 29 年度 文化庁 文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業

【お問合せ】ロームシアター京都チケットカウンター TEL.075-746-3201